

設立趣旨書

1. 趣旨

学童保育は働く親たちが制度のない中、我が子に放課後生活を、寂しく留守番をして過ごさせるのではなく、子ども集団の中でいきいきと豊かな生活が送れるよう、自分たちの手で開設してきました。

子どもたちを取り巻く環境は変化し続け、地域の都市化は空き地を工場や住宅にかえ、道は自動車であふれ、子どもたちの遊ぶ空間を奪っていきました。遊び場をなくした子どもたちは群れて遊ぶこともなくなり、家庭で孤立化していきました。子どもたちの成長にとって必要である遊びの空間、時間、仲間が失われていったのです。

子どもたちを取り巻く社会はどうでしょう。家庭を支える保護者の働き方は一段と厳しくなり、親子で過ごす時間も短くなり、家庭で生活力を育てる余裕もなくなっています。また、長い間の不況も影響し、経済的にも生活困難者が増えています。貧困格差が連鎖し、悪循環になっています。

子育てをする親が孤立化し、虐待も増加しました。せっかくこの世に生を受けた子どもたちが豊に成長発達していくためには、どんな生活や環境を整えてあげたらよいのでしょうか。子どもたちが自己肯定感を持てるように、そして相手のことを思いやってあげることができるように、そして仲間たちと一緒に生活をつくっていくことができるようになるために、私たちは何ができるのでしょうか。

幸いにして、学童保育では1年生から6年生までの異年齢集団があり、ガキ大将的存在の指導員もいて、更には友達の保護者が我が子のように接する等地域における大人との斜めの関係もある環境です。

この間、私たちは「共同学童保育」をつくり、運営してくる中で仲間集団で話し合い、一緒に活動し、大人も子どもたちも一緒に育っていくことの素晴らしさを経験してきました。その育ち合いは本来は地域というコミュニティの中で、つくられていくことだったのかもしれませんが。その地域の教育力を再生させるために、私たちのこれまで培ってきた経験を学童保育の中だけに留めるのではなく、地域の中で実践していくことが求められています。

私たちは、学童保育に関する運営相談・支援、子育て相談・支援、学び合い、交流し合い、育ち合うことを支える地域における拠点づくりのために非営利の法人格を取得するものです。

子育てを「孤育て」にするのではなく、乳児から幼児、学童、青年、成人、高齢者みんなが豊に生活できるように、学童保育が持っている「協働」の輪を地域に広げ、地域の人たちが平和と幸せに暮らせる地域社会づくりに貢献します。

2. 申請に至る経過

私たちは、学童保育で子育てをしてきた保護者や指導員、研究者等学童保育を応援しようという人が集まり、2011年6月に「学童保育・地域子育てサポートセンター北海道」を設立しました。

この間、学童保育に対する相談支援活動、あそびの研修、放課後児童指導員養成セミナー、札幌市プレーパーク推進事業等を実践してきました。

私たちは社会的信頼を得て、活動と規模を更に発展させ、会員拡大や財政基盤の強化と共に透明性のある運営を図るために非営利法人設立の申請することになりました。

平成25年7月13日

特定非営利法人 学童保育・地域子育てサポートセンター北海道

設立代表者 宮崎 隆志